

| | | | | | |
|-------|--------------|------|-----|----|---|
| 授業科目名 | フィールドワーク実習ⅡB | 担当形態 | 実習 | | |
| | | 開講学期 | 秋学期 | | |
| 担当教員 | 猪狩 裕史 | 単位 | 1 | 年次 | 2 |

＝授業のテーマ及び到達目標＝

1. 音楽療法士としての第一歩を踏み出す準備として、障がいやニーズのある人を対象とした音楽療法の現場を、アシスタント、ビデオ撮影者として体験し、音楽療法の実践現場に関する知識を身につける。
2. 音楽療法士として必要な治療計画書、ログブック（記録）、評価書の書き方を学ぶ。
3. 実践現場で役立つ、高齢者や障がいのある人に対する有効な援助の仕方を学ぶ。

※日本音楽療法学会で認定する音楽療法士（補）受験資格を取得するために必要な科目である。主専攻以外の学生が取得する場合は、音楽療法について学ぶ意欲を持っていること。

＝履修の条件と学習の方法＝

1. 音楽療法総論、音楽心理学、臨床音楽療法概論（音楽療法の技法）を履修していることが望ましい。

＝授業の概要＝

これは、日本音楽療法学会で認定する音楽療法士（補）受験資格を取得するために必要な実習科目である。形式としては、3-4年生のフィールドワークに帯同して、ビデオ撮影やアシスタントセラピストとしてセッションに参加する。

主専攻以外の学生が取得する場合は、音楽療法について学ぶ意欲を持っていること。また、音楽療法総論、音楽心理学、臨床音楽療法概論（音楽療法の技法）を履修していることが望ましい。フィールドワーク実習は基本的には段階履修であるが、やむを得ない事情で段階を飛ばして履修する場合は、担当教員に相談し、許可を得ること。

＝授業計画＝

- 1回 授業の説明、役割の順番を決める、実習に参加するにあたっての注意事項、課題の説明。シアーズの『ミュージックセラピーの過程』（プリント）、ブルシアの『音楽経験の型』（プリント）
- 2回 実践現場でのオリエンテーション
- 3回 施設において実習（その1）
- 4回 施設において実習（その2）
- 5回 施設において実習（その3）
- 6回 施設において実習（その4）
- 7回 施設において実習（その5）
- 8回 施設において実習（その6）
- 9回 施設において実習（その7）
- 10回 施設において実習（その8）
- 11回 施設において実習（その9）
- 12回 施設において実習（その10）
- 13回 施設において実習（その11）
- 14回 施設において実習（その12）
- 15回 反省会、まとめ

＝テキスト（必携）＝

特になし

＝参考書・参考資料（必携）＝

シアーズの『ミュージックセラピーの過程』(プリント)、ブルシアの『音楽経験の型』(プリント)

=成績評価の方法と評価の基準=

- ・ 実習の参加内容 50%、ログブック 40%、感想文 10%
- ・ 無断遅刻は1%、無断欠席は2%の減点。課題提出の遅れも一日遅れる毎に1%の減点となる。
- ・ これらの点数を合計し、90点以上はS、80点～90点未満はA、70～80点未満はB、60～70点未満はC、60点未満はDとなる。

=その他=